

霞が関働き方改革推進チーム（第４回）議事概要

○日時：平成 29 年 3 月 23 日（木）15:30～18:00

○場所：中央合同庁舎第 8 号館 6 階 623 会議室

○概要

これまで 4 グループに分かれて 10 年後の中堅・若手行政官の理想の姿と現状とのギャップを埋めるための具体的な改善策について議論してきたところ、グループごとにこれまでの議論の経過を発表し、意見交換を行った。各グループの発表内容の概要は以下の通り。

グループ 1

理想：役所本来の「政策立案」に十分な時間をかけて検討・実施できる。自身のワークライフバランスがとれ、職場のワークライフバランスにも気遣いができる。職場全体の能力向上や良好な職場環境の維持に取り組む。

現状とのギャップ：業務が細分化・専門化し業務量が増大している。業務が特定の職員に偏り、業務をシェアしたり知見を移譲できない。他律的な要因に左右される業務が多く自己研鑽に充てる時間がない。

具体的な改善策の例：

- ①組織内で共用の予定表を作成して作業項目やスケジュールを共有し、他の職員の業務を見える化する。
- ②業務マニュアルを作成し、特定の職員への業務の偏りを解消する。
- ③各種の計画や決定を統合し、フォローアップや調査の重複を減らす。

グループ 2

理想：自律的に業務を進められる。時代感覚・社会感覚を持った人材である。制約のない勤務スタイル。

現状とのギャップ：前例踏襲でリスク回避的。作業をこなすだけで手一杯で専門性を高めたり社会との関わりを持つための時間的余裕がない。リモートアクセス環境が整備されていない。

具体的な改善策の例：

- ①管理職以上で民間企業等の職場見学を行い、その中でよい取組の 1 つを自らの職場で実行する。
- ②毎日 20 分間、組織の作業効率化につながる改善（データフォルダの整理、作業のマニュアル化など）に充てる。
- ③リモートアクセス環境を整備する。

グループ 3

理想：真に必要な生産性の高い業務に専念する。時間や場所にとらわれずに自律的に勤務できる。府省庁の垣根を超えて緊密に連携できる。

現状とのギャップ：ムダな業務が多い。時間や場所に縛られている。府省庁間で垣根があり連携できていない。

具体的な改善策の例：

- ①不要な業務・ムダのあるやり方をリストアップし、効率的な仕事の進め方を確立する。
- ②働く場所の柔軟化にあわせた新たな勤怠管理の在り方を検討する。
- ③人事交流を活発化したり省庁横断的な研修を増やし、他省庁との連携を促進する。

グループ4

理想：アウトプットや生産性を意識し、これによる評価が行われている。時間や場所の制約を受けずに勤務できる。政策立案業務に労力の大部分を充てられる。

現状とのギャップ：費用対効果の意識やマネジメントに対する意識の欠如。I C Tに対する理解と利用意欲の欠如。過剰な業務。

具体的な改善策の例：

- ①テレワークの試行やスケジューラーの活用など、実際に有用性を体験することでI C Tへの理解を広げる。
- ②不要業務の見直しや業務の優先順位付けにより、過剰な業務を削減する。
- ③ルーティン作業に対してA Iを活用することで、職員が政策立案業務のために割く時間を確保する。

意見交換も踏まえて各グループにおいてとりまとめ、今年度の議論の成果として、今後公表することとなった。また、具体的な改善策の例のうち、平成 29 年度のワークライフバランス推進強化月間（7・8月）において取り組めるものを内閣人事局において試行することとなった。

以上